

中国ブロック・ユネスコ活動研究会 in 鳥取

ZOOM によるオンライン参加報告

テーマ 地球に寄り添う持続可能な社会づくり ～ジオパーク（地球の公園）＝足元から考えよう

中国ブロック・ユネスコ活動研究会 in 鳥取（主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、中国ブロック・ユネスコ連絡協議会、鳥取県ユネスコ連絡協議会）が、10月9日（土）、鳥取ユネスコ協会の主管で開かれました。本年度は、UNESCO 加盟70周年記念の事業として行われました。コロナ禍ということでZOOM によるオンライン開催となりました。



会場の様子(ZOOM 画面から転載)

テーマは「地球に寄り添う持続可能な社会づくり～ジオパーク（地球の公園）＝足元から考えよう」とされ、1部、2部形式で進められました。

第1部の基調講演では、公立鳥取環境大学准教授の柚洞一央（ゆほら・かずひろ）氏（ユネスコ世界ジオパーク現地審査員）が、「ユネスコが求める世界ジオパークの役割とは？」と題して講演。ジオパークはジオ（地球・大地）とパーク（公園）を合わせた言葉で、現在世界169のジオパーク地域（うち44が日本）が認定されており、ユネスコが事業を推進しています。柚洞准教授は「科学的価値のある地形。地質を後世に残し」「そこにある石や岩をとおり地球や人の営み、記憶を知る」「保全しながら観光活用もしていく」などとジオパークの意義を語り、高知・室戸ジオパークの現地の様子も披露しながら、研究者、行政、NPO法人、地域住民が一体で取り組むことの大切さを話されました。

続いて鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の安藤和也総括専門員が、京都、兵庫、鳥取の3府県にまたがる「山陰海岸ジオパーク」の魅力を紹介されました。事例発表では鳥取県の中学・高校が実践例を報告。

第2部で行われた「中国地区内ユネスコESD活動団体（個人）顕彰」では、五県から8組（小学校1、中学校4、高校1、団体1、個人1）が表彰され、広島県からは広島市立三入中学校が受賞されました。同校の活動発表では、2014年に発生した豪雨災害を機に地域や市の協力を得ながら、防災学習計画（防災グッズの調査、マップ作り、心肺蘇生法訓練など）を立て、安心・安全、命を守る実践教育の普及・意識高揚に取り組んでいることが報告されました。



発表内容(ZOOM 画面から転載)

同中学校は 2018 年度に、広島ユネスコ協会の「ユネスコ活動奨励賞」を受賞されています。

なお、この日の活動研究会では、日本ユネスコ協会連盟中国ブロック代表理事の松岡盛人・広島ユネスコ協会会長をはじめ、平井伸治鳥取県知事（ビデオレター）、深澤義彦鳥取市長（同）、中国ブロック・ユネスコ連絡協議会の鈴木昌徳会長らの挨拶がありました。（広報部会報告）